20002

LMTにstent留置後、CT検査よりstent deformationが確認できた一例。

【症例】　68歳男性。来院２～３週間前より労作時の胸部圧迫感あり。2012/4/13来院し冠動脈CTAを施行しLAD閉塞病変を認めた。同日に緊急冠動脈造影検査を施行し、CTと同様の所見を認めたため、LADにEndevaor sprintを留置した。2012/4/16に残存病変であるLMTからLCX方向にnobori　stentを留置しその後KBTを行い、IVUSでstent病変部分を確認後に手技を終了とした。2013/1/10に9ヶ月後fllowupCAGを施行したところ、LAD#６～#８のstent内にびまん性の再狭窄とLMTにstent fractureかと思われるような造影剤のバックフローを認めた。　CAGでは、stentの形状を把握出来なかったので、非造影での心臓CT検査を施行した。CTでのVR画像によりnobori stentが伸長しているのが確認できた。　fractureであれば心臓外科によりCABGの予定であったが、CTによりnobori stentのdeformationが確認できたので、LADのISRに対してPCIを施行した。LADへXIENCE PRIME LLを留置し、終了とした。【考察】　今回は、LMTに留置したstentのdeformationという症例であったが、留置後のstent詳細を把握するにはCT検査が有用であると考える症例を経験したので報告する。

評価１	評価２		評価３		採否
発表日時　月　日（第　日）	ｾｯｼｮﾝ		会場		時　分～　時　分

受付番号 [　　]　　演題番号 [　　]